

の う はくさんじんじゃ かいじょうしんこう しりょう
能生白山神社の海上信仰資料



- ・ 指定日 昭和62年3月3日
- ・ 所在地 能生
- ・ 員数 97点
- ・ 所有者 白山神社
- ・ 管理者
- ・ 時代 江戸

[地図表](#) 戻る



当地域は古くから回船が盛んで、船主や船頭は航海の安全や商売の繁昌を願って能生の白山神社へ船絵馬を奉納していました。現在残っている船絵馬93点、船額4点のうち、43点は奉納年が明確で、宝暦、明和年間（1751～1763、1764～1771）のものが多くを占め、わが国唯一といわれる「はがせ船」を描いた大型の船絵馬を含みます。「はがせ船」はいわゆる「北前船（当地では弁財船、千石船）」の前身とされる船で、船底が平らで丈夫なため、荒波や岩礁の多い日本海の航行に適した船であることから、日本海の手運史や海上信仰の資料として、たいへん貴重です。

「はがせ船」の船絵馬は縦105.2cm、横151.3cmと大きく描かれています。

明和三戌(1766)□七月吉日 願主 岡崎源左衛門 明□丸

えちご ひめかわだに うんぱんようぐ
**越後姫川谷のボッカ運搬用具
 コレクション**



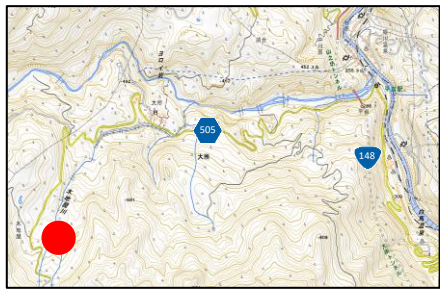
- ・ 指定日 平成16年2月6日
- ・ 所在地 山口、蒲池
- ・ 員数 706点
- ・ 所有者 塩の道資料保存会
- ・ 管理者

[地図](#)
[表](#) 戻る



糸魚川から信州松本まで延びる約120kmの松本街道を往来したボッカや牛方が用いた運搬用具類です。ボッカとは荷を背負って運搬すること、または運搬人を指します。根知地区の青年団が中心となり、昭和48年（1973）から収集した約2,000点の資料のうち、精選した706点が指定されました。江戸時代から昭和初期にかけて用いた背負運搬用具、牛方運搬用具、携行用具、衣類などから成ります。近世以降における信越交易の様子を示す資料としてたいへん貴重です。

いと い がわ き じ や せい さ く よ う ぐ せい ひ ん
糸魚川木地屋の製作用具と製品
 つ け た り き じ や か ん け い も ん じ ょ
コレクション附木地屋関係文書



- ・ 指定日 平成18年3月15日
- ・ 所在地 大所
- ・ 員数 1,421点附40点
- ・ 所有者 木地屋会
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



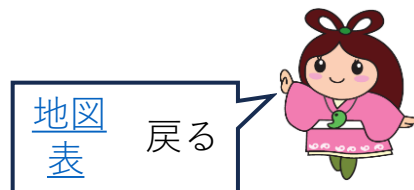
木地屋（木地師）は、ロクロと呼ばれる独自の木工具で椀木地などを製作する職業集団です。

資料は木地製作や漆器製作に用いた用具類とその製品はもちろん、木地の未製品から成ります。糸魚川の木地屋は江戸時代末期に大所に定着し、^{とち}枡や^{ぶな}櫛を用いて椀木地はもちろん、塗りも行っていましたが、第二次世界大戦を境に、その生産活動をほぼ休止して現在に至っています。これらの資料はすべて同一の集落内から収集されたもので、木地と漆器の製作を各家が分業で行っていたことを示すなど、木地製作の変遷を示す貴重な資料です。

ほりきよしげ がんぶん え ま
堀清重願文絵馬



- ・ 指定日 昭和46年3月26日
- ・ 所在地 御前山
- ・ 員数 1面
- ・ 大きさ 縦115cm横140cm
- ・ 所有者 雲台寺
- ・ 管理者
- ・ 時代 江戸



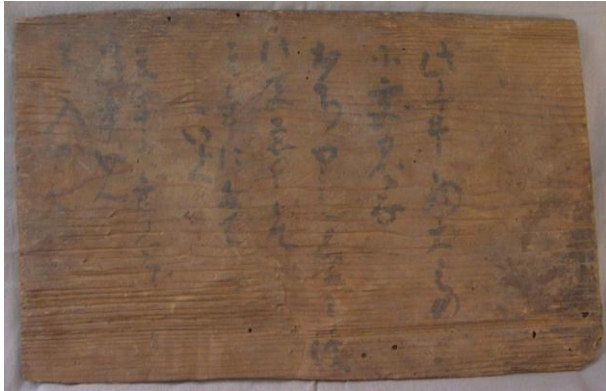
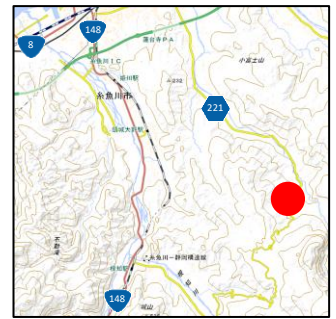
春日山城主の堀秀治ひではるの一門で、糸魚川の清崎城主堀備中守清重きよさきが、慶長11年（1606）7月17日に西海御前山の観音堂に奉納した黒駒の絵馬です。鉦削りなたと見られる杉の四分板を4枚並べた中に描かれたたくましい黒駒は見事で、仏前に捧げる駿馬しゅんめの形相が良く表れています。中央上部には本尊である十一面観音を意味する種子しゅじ（梵字ぼんじ）を配し、馬の周りには清重の願文が墨書されていますが、判読が難しくなっています。

清重はこの時、根知城から清崎城へ移り、この絵馬を奉納して城下の日照を避けるために雨乞をしたと考えられ、雲台寺の隆盛をうかがうことができる資料です。

奉掛絵馬為立願

慶長十一年丙午年七月十七日 願主 堀備中守清重

ひ よししや むなふだ
日吉社棟札

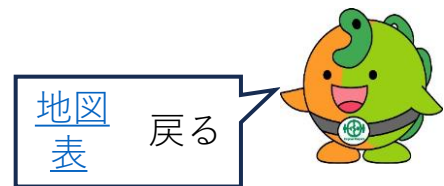


表



裏

- ・ 指定日 昭和46年3月26日
- ・ 所在地 来海沢
- ・ 員数 1枚
- ・ 大きさ 縦24cm横45cm
- ・ 所有者 日吉社
- ・ 管理者 来海沢区
- ・ 時代 安土桃山

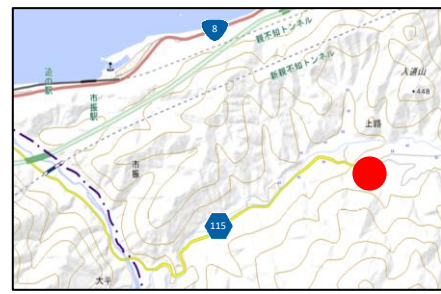


来海沢集落の氏神である日吉社の棟札で、天正19年（1591）のものです。^{なた}鉦削りされた杉板の表裏に墨書があり、表には、神火（落雷）または何らかの原因で宮が焼け落ち大騒ぎで再建したことやこの年に検地が入ったこと、裏は、山王（日吉）社の社殿を造営するための寄進を神主の^{たじまたゆう}丹嶋田夫が認める、という内容で、宮建造の古習がわかる貴重な資料です。

(表) 此年神火之為
□宮見な
おち申候 □□便
此宮急申候て
之年にたて
申候 以上
天正十九年ノとし
同此年けん
ち入申候

(裏) 天正拾九年 ^{かのと}うの年三百八十準日
山王九月拾日 丹嶋田夫
(中略)
丹嶋田夫 六拾六ノ年 (花押)

あげ ろやまんば でんせつ ち
上路山姥の伝説地



- ・ 指定日 昭和50年2月15日
- ・ 所在地 上路
- ・ 員数 6点
- ・ 所有者 個人・山姥里社・山姥奉賛会
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



謡曲「山姥」の舞台で知られている上路集落には、昔から山姥にまつわる多くの伝説があります。中でも白鳥山中腹にある「山姥洞」、「踊岩」および集落裏手の「山姥神社」、集落中央にある「山姥日向ぼっこ岩（シラミ取り岩）」、「金時手玉石」、「拝岩」は古くから上路集落の信仰の中心として日常生活にとけこみ、敬われ守られてきました。

ドブネ



側面



上面

- ・ 指定日 平成8年3月28日
- ・ 員数 1隻
- ・ 長さ・幅 10.1m・1.3m
- ・ 高さ 0.6m
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



日本海沿岸の広い地域に残る古形式を伝える小型漁船の一つで、かつては新潟県中・西頸城地方で用いられていました。これは最後のドブネ製作技術者であった故永越猪之松^{えいこし}・永助親子の手で製作されたもので、昭和初期に造られました。この地方特有であるドブネの製作技法と漁業史を伝える遺品として貴重です。

なお、ドブネの製作工程は昭和32年（1957）に、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」の選定を受け記録保存されています。

お う み た け
青海の竹のからかい

- ・ 指定日 昭和62年12月28日
- ・ 所在地 青海
- ・ 所有者 青海の竹のからかい保存会
- ・ 管理者

[地図](#)
表 戻る



江戸時代から続いているといわれるこの小正月行事は、青海地区の東町と西町に伝わります。歳神の来臨を仰ぎ、その神前において豊作・豊漁を青竹を引き合って占うもので、「さいの神焼き」を通じて新年の再生を願います。

町が東西に別れ、化粧をした若い衆などによる2本の竹（勇み竹・合せ竹）の引き合いは、たいへん珍しく、地域の生活文化を示す小正月行事です。

ももがわ こしょうがつさい かみぎょうじ

百川小正月塞の神行事



- ・ 指定日 平成3年3月28日
- ・ 所在地 百川

- ・ 所有者 百川小正月塞の神行事保存会
- ・ 管理者

[地図](#)
[表](#) 戻る



百川集落に伝わる小正月行事です。12月の下旬から木偶さんの製作や孟宗竹の切り出しが始まり、行事はすべて^{おやかた}親方と呼ばれる中学生の指図で行われ、古くは集落を東西に2分して行われていました。1月初旬には塞の神と諸道具を作り、1月14日の夕方には、宿となる親方宅で祭壇を設けて塞の神を迎えます。鳥追いは唄を歌いながら4、5回集落を回り、翌15日の0時過ぎから、塞の神一式を柳行李^{やなぎごうり}に入れ、集落内の家々を「ワクワククワクワ 銭も金もワクワククワクワ」と大声をあげて回り、書初めやお賽銭などをもらいながら浜辺に集まり、朝方には賽の神を立て、燃えた竹が倒れた方向で豊漁や豊作を占います。

とうざきかんのん どうはだかどう あ

藤崎観音堂裸胴上げ



- ・ 指定日 平成17年2月28日
- ・ 所在地 藤崎
- ・ 所有者 藤崎区
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



藤崎集落の観音堂に伝わる奇祭で、毎年初観音の前夜、1月17日の午後8時頃より行われます。フンドシを締めた若者衆は、参詣者の中から^{やくどし}厄年の人を「メツケター」(見つけた)とつかまえ、大の字に持ち上げ「サッシャゲー」(差し上げ)と叫びながら堂内を練り歩き、頃合を見て3回放り上げます。このような胴上げを繰り返して、参詣者の厄を落とし、無病息災を祈ります。江戸時代より伝わるとされ、昔ながらの風習と信仰を融合させた、勇壮で、独特な行事です。



民俗文化財 重要無形民俗文化財
 民俗芸能

いとうい がわ の う ぶ が く
糸魚川・能生の舞楽



(1) 糸魚川

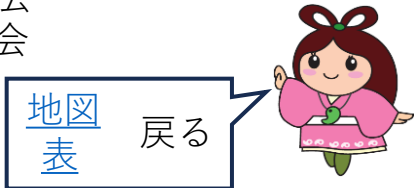


鶏冠



陵王

- ・ 指定日 昭和55年1月28日
- ・ 所在地 一の宮1丁目
- ・ 所有者 天津神社舞楽会
- ・ 管理者 文化財保存会



糸魚川の天津神社春季大祭に伝わる舞楽は、大阪^{してんのうじ}四天王寺の流れをくみ、天津神社は4月10日に奉納されます。稚児による演目が多いことから「稚児舞楽」とも呼ばれて親しまれています。

天津神社の舞楽は鎌倉風とされ、「^{えんぶ}振鉦」「^{あま}安摩」「^{けいかん}鶏冠」「^{ぼとう}抜頭」「^{はま}破摩
^{ゆみ}弓」「^{ちごなそり}見納曾利」「^{のうぼとう}能抜頭」「^{けご}華籠」「^{おおなそり}大納曾利」「^{たいへいらく}太平楽」「^{きゅうほうらく}久宝楽」「^{りょう}陵
^{おう}王」の12曲で構成され、文献資料から300年は^{さかのぼ}遡るとされています。

いと い がわ の う ぶ が く
糸魚川・能生の舞楽

(2) 能生



童羅利



陵王

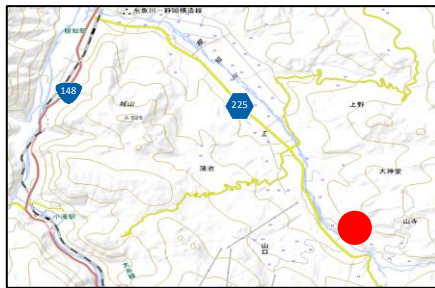
- ・ 指定日 昭和55年1月28日
- ・ 所在地 能生
- ・ 所有者 白山神社
- ・ 管理者 文化財保存会

[地図表](#) 戻る



能生の白山神社の春季大祭に伝わる舞楽は、大阪^{してんのうじ}四天王寺の流れをくみ、白山神社は4月24日に奉納されます。稚児による演目が多いことから「稚児舞楽」とも呼ばれて親しまれています。

白山神社の舞楽は、境内で御神嚮行列の先払いとして獅子舞が行われ、「^{えんぶ}振舞」「^{そうらい}候礼」「^{どうらり}童羅利」「^{ちぎゅう}地久」「^{のうばとう}能抜頭」「^{たい}泰平楽」「^{なそり}納曾利」「^{きゅうほうらく}弓法楽」「^{ちごばとう}児抜頭」「^{りんが}輪歌」「^{りょうおう}陵王」の11曲が演じられます。長享2年（1488）に能生太平寺に滞在した^{ばんり}万里集九の日記『梅花無尽蔵』に「祭祀之童舞有り」とあることから500年は遡るとされています。

ね ち やま で ら えんねん
根知山寺の延年

おててこ舞

- ・ 指定日 昭和55年1月28日
- ・ 所在地 山寺
- ・ 所有者 日吉神社奉賛会
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



山寺集落の日吉神社に奉納される^{しんぶつしゅうごう}神仏習合を色濃く残す県内唯一の延年芸能で、地元では「山寺のおててこ舞」として親しまれています。延年は、毎年9月1日に神社の祭礼に奉納され、「おててこ舞」「くるいの舞」「鏡の舞」「花の舞」「弓の舞」「鉾の舞」「種蒔き」「しめの舞」「万才」「獅子舞」の10曲からなり、^{ふりゅう}風流と稚児舞楽を中核としながら、「^{かぐら}神楽」「^{まんざい}万才」「獅子舞」の類も組み入れられています。舞の由来や起源は定かではありませんが、おててこ舞の歌詞には室町小歌の言葉づかいも残ることから、京都の流れを汲み、400年から500年前には伝わったとされています。

前日の宵宮では神楽9曲が奉納され、その後、境内は盆踊りが賑やかに行われます。

かわづめかぐら おど
川詰神楽と踊り



面神楽

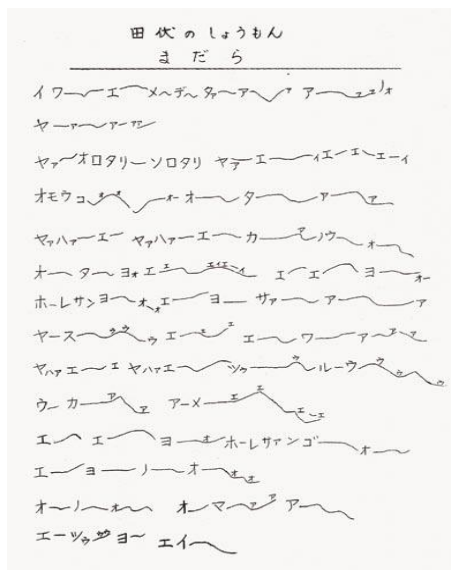
- ・ 指定日 平成3年3月28日
- ・ 所在地 川詰
- ・ 所有者 川詰神楽保存会
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



能生谷の川詰集落は高田往来の古道の道筋にあたります。ここで足を休めたくぐつし傀儡師やきじし木地師によって、200年前には伝えられていたとされます。「悪魔払い」「まり獅子」「面神楽」などの神楽、「新保広大寺」「おけさ」「追分」「伊勢音頭」「綾踊り」などの踊り、でく木偶芝居から成りますが、木偶芝居は絶えてしまいました。

たぶせ
田伏まだら



- ・ 指定日 平成8年3月28日
- ・ 所在地 田伏
- ・ 所有者 田伏まだら保存会
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



「まだら」は日本海側の集落に多く点在した民謡で、新潟県では田伏地区だけに漁師の祝儀唄として伝承されています。

祝いめでたや 思うこと叶うた 末は鶴亀 五葉の松

という短い歌詞の母音部分を長く引いて唄うところに特徴があり、同様の祝儀唄は能登の七尾市にも伝わることから、この地方における漁村の習俗や海上交通の歴史を知る上でも貴重といえます。

あらまちおきなまいしき
新町翁舞式



- ・ 指定日 平成9年7月22日
- ・ 所在地 上覚
- ・ 所有者 新町翁舞式保存会
- ・ 管理者

[地図](#)
[表](#) 戻る



「翁は能にして能にあらず」といわれ、一種の神事としてきわめて厳粛かつ大切な儀式とされています。新町集落に伝わる翁舞式は「千歳」「翁」「^{さんばそう}三番叟」の3曲で構成され、その発生は不詳ですが、江戸時代中期頃より面・装束・管鼓などと共に伝えられてきたとされています。演能の日は定まっておらず、国家の慶祝事や新町集落内の祝賀等にのみ催される、という特色を持ち、素朴ではあるものの、地方に伝存する能楽の翁として芸能史上、貴重です。